

全地連「技術フォーラム2014」秋田 総括

東北地質調査業協会 副理事長
全地連「技術フォーラム2014」秋田 実行委員長
奥山 和彦



平成26年9月18日～19日、第25回全地連「技術フォーラム2014」秋田が秋田キャッスルホテルで開催され、盛会の内に無事終了しましたことは未だ皆様の記憶に新しいことと思います。今回のメインテーマは「ジオ・アドバイザーの役割 - 技術と技能の融合」で、全国からの地質調査業に係る400名以上の技術者と、来賓・関係者・一般参加者を合わせて総勢515名の参加者数になりました。全国各地の技術者との交流を通して我々ジオ・アドバイザーの役割の重要性を実感できたことは何よりの成果だったと思います。また、フォーラム最終日には参加者の皆様の口々から「今回のフォーラムは良かった」、「会場も運営も申し分ない」など聞こえてきたことが我々の大きな達成感となりました。1年以上前から、一緒に知恵を絞りながら努力していただいた実行委員の皆様、スタッフの皆様へ改めて深く感謝をいたします。

実行委員会は、

理事長 高橋和幸

実行委員長 奥山和彦(副理事長)

副実行委員長 高橋克実(理事 総務部会担当)

副実行委員長 新田洋一(理事 技術発表部会担当)

副実行委員長 熊谷茂一(理事 行事部会担当)

を筆頭に各理事、各常設委員会の委員、各会員会社の技術者、事務局長および局員の総勢45名で構成され、それぞれの任務に当たりました。



総合受付 あきた観光レディーによるお出迎え

全地連技術フォーラムは従来より若手技術者の発表・交流の場となっており、過去24回の開催経験から既に全地連により運営マニュアルは固まっていたが、これに東北地質調査業協会独自の企画を加えてより盛り上がるフォーラムになるよう実行委員会で何度も議論を重ねました。特に初日に開催される特別セッションの基調講演には、地元の秋田大学の佐藤時幸教授に我々地質調査業界に属する若者たちが夢と希望を持てるご講演をお願いしましたところ、「深海から探る地球史ダイナミクス～恐竜の絶滅からタイタニックまで～」と題した、大変興味深く、印象的なお話を聞くことが出来ました。会場は立見席が出るくらいの超満員で、どの聴講者も身を乗り出して聞いていたのが印象的でした。



成田賢 全地連会長による挨拶



佐藤幸幸 秋田大教授による基調講演

展示ブースでも東北らしさを強調しました。東北地質調査業協会の活動内容を紹介するとともに、東北地域を代表する土質サンプル、そして東北大学大学院理学研究科箕浦教授よりお借りした「仙台平野における津波堆積物剥ぎ取り標本」を展示しました。

また、今回の全地連「技術フォーラム2014」秋田の開催を記念して、東北地質調査業協会の創立50周年(平成21年)を記念に協会誌「大地」で特集が組まれた「最新 東北の地質」を抜粋し、東北6県の地質を再編集した合冊版「最新 東北の地質」を発行しました。これも展示ブースに陳列し、訪問者に無料配布しました。

さらに、今回の技術フォーラムを機に東北地質調査業協会として社会貢献活動に直接参画することになりました。「OECD 東北スクール」という東日本大震災から地域復興の担い手を育てる国際教育プロジェクトが福島大学および文部科学省などが中心となり展開されています。東北地質調査業協会では、明日を担う若者が積極的に海外に出かけて東北の現状と未来を紹介する活動に賛同し、今年8月にフランスのパリで開催されたイベントへの若者派遣事業に対して寄付金を贈りました。東北地質調査業協会としては、今後もこのプロジェクトに対して支援を継続する目的で、展示ブースでこの支援活動を紹介するとともに、賛同者に対して募金を呼びかけました。東北地質調査業協会の展示ブースの好評さと相まって、大変多くの募金が集まりました。募金をしていただいた皆様に心から感謝いたします。皆様のご厚意はこのプロジェクトへの寄付という形でお応えしたいと思います。

一日目の最後のイベント「技術者交流懇親会」は、参加者全員が大変楽しみにしている場であり、東北地方を、そして秋田県を全国に紹介するまたとない機会でした。アトラクションは、秋田県理事を中心に実行委員会で議論を重ねて、「動と静」をコンセプトに「なまはげ太鼓」と「西馬音内盆踊り」を企画しました。結果は、オープニング時に繰り出した迫力のあるなまはげ太鼓に参加者全員が度肝を抜かれ、演舞の進行と共に会場が盛り上がっていくのが実感できました。さらに、会の終盤で登場した妖艶な西馬音内盆踊りの一団に、ほろ酔いの参加者全員の目が釘付けになり、いつしか幻想的な世界へ引き込まれていきました。また、会場の一角には、東北各県の銘酒を10種類以上置きましたが、全国の日本酒愛好家が黒山を作りあつという間に完売いたしました。

このように、楽しい時間はあつという間に過ぎ、国土交通省、東北地方整備局、秋田県、秋田市、ならびに各団体を代表するご来賓の方々、そして全国各地から参加した会員各位の口々から我々東北地質調査業協会の「おもてなし」の心遣いに対して賞賛のお言葉をいただきました。



展示会場



東北地質調査業協会の展示ブース



技術者交流懇親会



アトラクションの「なまはげ太鼓」

二日目は、フォーラム開催中ではありましたが、次回の開催予定地名古屋の中部地質調査業協会の実行委員会の皆様と東北地質調査業協会実行委員会の合同会議を開催しました。ここでは、フォーラム開催までに地域協会が担当する準備作業やそれに伴う苦労話などをし、開催に当たっての具体的な質問にお答えするなどして、「第26回全地連技術フォーラム2015名古屋」の成功を全員で祈りました。

フォーラム当日、全体のスタッフミーティングの初顔合わせから始まった会場運営もスムーズに行われ、改めて東北地質調査業協会の皆様のチームワークの良さに驚かされるとともに、大変感謝しております。

最後になりますが、あっという間の二日間でしたが、実行委員および全てのスタッフの皆様のご協力のもと無事終了することが出来たことに安堵するとともに、関係各位への感謝の念で一杯でございます。この秋田開催技術フォーラムを成功裏に導いた成果は、今後の東北地質調査業協会の運営を盤石にするものであり、大きな財産になったことを確信しました。

「こんなに立派な運営をされたら、来年開催のハードルが高くて大変だ」という中部地質調査業協会の皆様のお言葉を添えて、総括報告とさせていただきます。

今回の開催に当たり、細部に渡りご指導いただいた一般社団法人全国地質調査業協会連合会並びに関東地質調査業協会の関係各位、運営に当たりご協力いただいた東北地質調査業協会の関係各位に重ねて厚く御礼申し上げます。